

つくしだより



令和6年3月号

病院家族会交流会とアンケート調査

都連理事 中住 孝典

2019年12月に東京つくし会で初めて病院家族会を対象とした交流会を行い、年1回は毎年行う予定でしたがその後新型コロナウイルス感染拡大のため開催できず2023年2月第2回目を行い、今回第3回目となる病院家族会交流会が2月17日(土)東京都戦没者霊園(文京区)で行われました。その御報告をいたします。

参加病院家族会はやすらぎ会(吉祥寺病院)・むさしの会(国立精神神経医療研究センター)・オリーブ会(北千住旭クリニック)・東大いちよりの会(東大病院)・ポレポレの会(恩方病院)・あかね会(昭和大学付属烏山病院)・しいの実会(東京武蔵野病院)の7病院家族会の方々にお集まりました。

第一部として都連植松副会長より「滝山病院事件について考える」というテーマで事件のあらまし、今後の課題に向けた報告がありました。第二部として都連理事・中住が病院家族会アンケート調査集計報告(そこから見えてくるもの)をさせていただきます。

どの病院家族会も地域家族会と同

様に参加者の高齢化や固定減少化、新入会者不足、役員のなり手不足と継承問題、財源問題など運営の維持継続に対する様々な課題があります。それに拍車をかける形で新型コロナウイルスの発生がありました。病院の特殊性が絡み例会の開催も十分もてず、さらに会員離れが助長するという中、病院家族会の維持運営に向けそれぞれの家族会が苦労しながらその運営に当たっています。

今回は3回目を開くにあたり病院家族会の会員に向けたアンケート調査を行い会員の皆様の声を少しでも多く受け止め、その結果を共有しながら今後の病院家族会の維持発展に向けた意見交換を行うこととなりました。年末のご多忙の中多くの病院家族会の方々にアンケート調査にご協力をいただき熱く感謝いたします。

紙面の都合上多くは語れませんが①病院家族会の課題・問題では圧倒的に・会員数の減少・新たな入会者がいない・役員の高齢化・役員のなり手がない・運営資金不足・省力化が困難・広範囲の地域からの参加のため高齢化により家族会参加が負担になっているがあげられています。

②その改善と工夫では・その都度声

をかける等の日常的な働きかけ・相談事に対しても迅速に対応する・主治医やスタッフに協力してもらい色々な形で新入会員の啓発や勧誘を行う・地域以外の家族会で距離的に行きやすい家族会参加も生かす・少ないなりにできることを続ける(火を消さない努力)・兄弟姉妹の役員参加が得られ貢献してもらっている(つなぐことを意識する)です。

③病院家族会に期待することでも多くのご意見をいただき・同じ課題・悩みをもつ家族との出会い、交流を通しての共感と学びの場であること・地域家族会とは違い医師、看護師等の医療従事者との交流があり病院側との協力体制を図り、病院の専門家に直接相談できるメリットを生かすこと・病院と家族会が協力してより良い治療(治療環境)が進む一助になること・一部の人に負担がかかる傾向があるため若い人、現役世代の入会者を増やすよう病院スタッフの協力を得るようすること・会員のためになる病院との関係を作っていける家族会であることなどが挙げられています。

現状の病院家族会に対する様々な困難や心配がある中でも病院家族会

が必要との意見は全体の92%と圧倒的に高いということが改めて認識できる結果でした。

懇談の中では・自分たちの家族会でもアンケート調査を行い今後の存続を前向きに考えていこうと思っていた・医療スタッフと協力してポスターやチラシを家族の目につくところに置き啓発につなげたい・役員になると学びがでたり、医師等との関係も深まる等のメリットがあることも伝えていく・病院とはあくまで対等な関係性を意識し財源問題はあるがやれる範囲内でやり続けるなど貴重な意見も多かったです。

色々な課題をもちながらも病院家族会の存在や継続がいかに大事かを確認・共有する貴重な機会となりました。病院家族会のメリット、存在価値を有効に活かすため、東京つくし会も具体的な後押しを共に進めていく必要を感じております。また家族会として病院家族会と地域家族会の関係も有効に活かせるような展開も更に進められればと願っております。

参加された病院家族会の皆様、そしてアンケートにお答えいただいた皆様、本当にありがとうございました。



「みんなねつと災害対策本部」設置と義援金の受付について

都連会長 眞壁 博美

1月1日に発生した能登半島地震は、時間経過とともにその甚大な被害も明らかになってきています。復興にも時間を要し長期化する見通しとなりました。

「みんなねつと」から東京つくし会に、義援金の協力依頼がありました。東京つくし会2月理事会では、義援金が迅速に届くよう、都連で集めず、各単会・個人で直接振り込むようをお願いすることに決定しました。

●趣旨

能登半島地震による被災地の人々及び精神障害者支援等への支援活動をおこなうため、当会事務局内に『みんなねつと災害対策本部』を設置する。

●主な取り組み

- ①被災地の家族会員および精神障害者等の被災状況の情報収集
- ②被災地支援活動のための義援金募集および配布方法の検討。
- ③その他の被災地支援に必要な活動。

●義援金口座

【ゆうちょから入金】

記号・10160 番号・02155921

【他行から入金】

ゆうちょ銀行【店名】〇一八（ゼロイチハチ）

【店番】〇一八【預金種目】普通預金

【口座番号】0215592

【名義】公益社団法人全国精神保健福祉会連合会

シヤ）ゼンコクセイシンホケンフクシカイレ
ンゴウカイ（カナの場合、法人格省略表記）

※この義援金は確定申告の際の寄付金控除の対象になります。年間2千円以上の寄付の場合、県連や家族会でまとめて送金頂いた場合でも、氏名・住所。金額・送金日を連絡いただければ、領収証を発行いたします。

●義援金受付期間

- ・第1次（2024年1月22日～3月末）
- ・第2次（2024年4月1日～6月末）

国立シユロの会に

安藤理事が訪問してくれました。

都連副会長 植松 和光

2月25日(日)（午後1時30分から午後4時まで）に東京つくし会安藤理事がシユロの会の学習交流会に家族会訪問として参加してくれました。

当日は雨の降るあいにくの天気のため本
当に有難うございました。

安藤理事は自己紹介の中で当事者の発病
当時のことから現在の状況までをお話をし

て下さり、参加された皆さんが熱心に聞き入る姿がとても印象的でした。

学習会は国立市富士見台にあるくにたち福祉会館会議室で行いました。今回のテーマは「精神障がい者と保険の話」で21名の方が参加しました。講師は(株)Jリスクマネージメントのフィナンシャル・プランニング技能士の本橋徹大氏と同じく阿部智史氏でした。

不安を解消するための保険と題して

1 4つのリスクに備える公的保険

・死亡リスク(公的年金(遺族年金))

・就労不能・介護リスク

(傷病手当金、障害年金、介護保険)

・医療リスク(公的医療保険)

・老後リスク(老齢年金)

2 生活設計における必要補償額の考え方

・必要となるお金から入ってくるお金を引くと必要補償額となる。

3 どんな病気が心配か

・一番多いのが脳血管疾患12・1%ガン9・6%など生活習慣病が全体の31・1%を占めている。

4 もし、入院したらいくらかかるか

・平均1日1万400円だそうです。

5 医療費が高額になったときの対応

・高額療養費助成制度

6 精神障がい者でも保険に入ることができ
きるのか

・色々例を挙げながら、入れる保険と入れない保険を紹介してくれました。

今回の学習会で、現在の公的制度だけでは病気や家族が死亡した場合に対応できないこと、精神疾患でも入れる保険があることがわかりました。

家族会訪問

狛江精神保健福祉会「狛江さつき会」

都連理事 安藤 万寿代

2月27日(火)午後1時30分から講演会を4年ぶりに、障団連後援で開催しました。参加者は市議会議員・一般市民・家族会の皆様で10名でした。

テーマは「精神科病院から地域支援、当事者支援から家族支援」、講師の中住孝典氏(相談支援事業所はまなす代表・都連理事)は、長らく精神科病院のソーシャルワーカーとして、病院から患者さんの社会復帰活動・生活支援活動・受診支援・入院支援を行ってきました。現在は東京青梅市で相談支援事業所「はまなす」を開設して、当事者支援・家族会「ほっとスマイル」の支援をしています。講演では次のようなお話がありました。

精神科病院のソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として精神科病院を通して、患者さんの社会復帰活動・生活支援活動・受診支援・入院支援を行いました。患者さんの生活支援を本格的に行うには地域に出る必要を感じ、病院から地域に移り、相談支援事業・就労支援活動を行ってきました。(病院↓地域・当事者支援↓家族支援)

40年の長きにわたり精神科病院の医療福祉相談室長、地域活動を行う中で、医療とは当事者の力を生かす事が必要で、服薬のみでは回復が出来ない、昨今の精神科病院の問題は、構造を変えないと解決しないと考えます。当事者の行き場や自分の力を試せる場が無いという問題・本人と家族の問題・孤立しやすい状況で生活している問題と同時に、家族も孤立している問題から、家族支援も必要として家族会は大事な存在です。家族会は、広く様々な社会資源を活用してください。

親亡き後の心配や不安は、親がいる今をどう生きるかという事につながるという言葉には共感しました。ありがとうございました。



家族会交流コーナー

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。より良い家族会活動のために役立つ場にしたいと思っています。載せたい情報を毎月20日までに、つくし会事務所にメール(tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp)またはFAX(042-453-7534)までお寄せください。

【情報提供】

親が倒れたら、わが子はどうなる？ そんな事態を想定した取り組みがあります。皆さんの地域では？

【世田谷区】 障害者のご家族等、介護する方が急病や事故等で支援ができなくなったなど、突発的な緊急事態に24時間365日対応するサービスです。65歳未満で受給者証を所持している事前登録者が対象です。

【杉並区】 介護者が急な病気などで不在になったときに、一人で過ごすことが難しい方に、原則5日間の過ごし方や緊急連絡先などをあらかじめ確認し、「緊急時対応計画」として備えておくものです。緊急時対応計画を作成することで、ご本人を取り巻くネットワークが明らかになり、不足しているサービスが見えてくるメリットもあります。

発達障害機関紙「プリズム」より抜粋

★ 寄付のお知らせ ★

文京区家族会様

7600円

前山 栄江様

10000円

ありがとうございます。

★ 講演会のお知らせ ★

○当事者と接する時に

家族がしてよいこと、悪いこと

日時 3月20日(祝) 午後2時～4時半

講師 高森 信子氏

会場 練馬区役所19階1902会議室

参加費 500円

主催 NPO法人・練馬すずしろ会

申込 ☎・FAX 03-3994-3382

○みんなでやろう家族SST

日時 4月6日(土) 午後1時半～4時

講師 高森 信子氏

会場 二幸産業・NSP健幸福祉プラザ

5階視聴覚室 申込不要

主催 サンクラブ多摩 ☎042-371-3380

○高森さんの家族SST

日時 4月14日(日) 午後2時～4時

講師 高森 信子氏

会場 くにたち福祉会館

国立市富士見台2-38-5

主催 シュロの会

申込 要予約 先着25名
☎080-1211-6898 植松

編集後記

街を歩いているとどこからかいい香りがするので行ってみると沈丁花でした。もう満開でした。ちょこっと横を見ると水仙の花がもう咲き終わっていました。

例年より益々早くなる春の足音。しかし、こんなことを感じられるのも日本が平和だからでしょうね。

ロシアがウクライナに侵攻してからもう2年、どれだけの命が奪われたことでしょう、自然も家族が楽しい生活を送ってきた住まいも破壊しつくされ。

パレスチナのガザでは、家も学校も病院もすべてが壊され人々は虫けらの様に殺され毎日恐怖におののいています。今、悲惨な状況に置かれているのが障害者だそうです。中でも足を失うなどして身体に障害を負った人が5万人以上も増え深刻な状況に置かれています。小さな子供の逃げ惑う姿をテレビで見るといたたまれなくなります。

いつになったら、公園に花が咲き散歩を楽しむこと、お茶を飲みながら一家だんらんをすることができるようか。一日も早い停戦と復興を願うばかりです。

都連理事 植松 和光

つくしだよりは赤い羽根共同基金の配分を受けて発行しています。